

(63)

氏名(生年月日)	岩 井 一 正
本 籍	
学位の種類	医学博士
学位授与の番号	乙第989号
学位授与の日付	平成1年2月17日
学位授与の要件	学位規則第5条第2項該当(博士の学位論文提出者)
学位論文題目	急性および慢性妄想と Schneider K. の精神分裂病一級症状 —単一精神病的観点からの妄想に関する研究—
論文審査委員	(主査) 教授 柴田 取一 (副査) 教授 平山 峻, 教授 小山 生子

論 文 内 容 の 要 旨

目的

精神科の基幹概念である妄想を、現在主として行われるように内因性の疾病区分に基づいて個別にかつ静止的に検討するのではなく、疾病区分を外した全体的視野の中で経時的に観察する。また同時に、このような単一精神的視点の下で、K. Schneider の精神分裂病の一級症状の出現の様式を観察し、その長期経過上の意義を考察する。

対象と方法

昭和62年6月から63年5月の1年間に東京女子医大神経精神科3階の男子閉鎖病棟に内因性精神病圏の診断で入院した男性患者73例の内から、この目的にそって検討可能な全23例を選んだ。

方法として精神病理学的な観察法を用いた。

結果および考察

1. 急性及び慢性妄想は、精神科における疾病区分を越えて共通する妄想構造を持ち、また相互に対蹠的である。急性妄想は可逆的で、強い感情障害を伴い、患者は妄想に激しく巻き込まれる。また妄想着想或いは妄想知覚という発生様式に関する構造が特徴である。慢性妄想は、情動推進面の変化から独立し、患者は妄想界と現実とを二重帳簿で生きる。構造としては、空想作話ないしは組織化という妄想の加工に関する特徴がある。

2. K. Schneider の精神分裂病一級症状は急性妄想を基盤にして成立し、急性妄想とともに消長する。

3. 一級症状の内訳は、経過中一定の傾向をもって変

化する。すなわち、妄想知覚は急性初発妄想にも観察され、経過早期が代表的な好発期であり、後半には出現が稀である。これに比べると被影響体験は出現がやや遅れ、何度目かの再燃期に好発する。一般症状を症状群として観察すると、経過早期は症状が豊富なのに比べ、晩期には幻聴や被影響体験などの孤立した症状のみが認められ、症状群としては非常に貧困化する。

4. 再燃する経過を呈した症例では、このような一級症状のスペクトルの変化を軸として、急性妄想から慢性型の遷延した妄想への移行が経過中に追跡された。

結論

1. 妄想は、経過の面としては短期的にも長期的にも動的である。

2. 急性妄想と慢性妄想との区別は、疾患区分に制約されぬ普遍的な精神病理学的概念として捉え得る。急性妄想は、その本質を精神病の疾病性による人格の震撼と捉えられる。一方慢性妄想では疾病性格から離れた人格レベルでの妄想的加工が特徴的である。

3. 一般症状は、疾病の本質に密接な急性妄想から、人格構造の変形を基盤とする慢性妄想への移行を導く役割を果たしている。

論文審査の要旨

本研究は、古来狂気と殆ど同義に考えられて来た妄想という概念を、内因性精神疾患の疾病区分の枠組を外して経時的に観察した、独創的な研究である。そして妄想内容が流動的であること、急性妄想は疾病による人格の震撼と、慢性妄想は疾病性格から離れた個人の加工と見られること、また、K. Schneider の謂わゆる精神分裂病一級症状は前者から後者への移行を導く役割を果たすという所見は、学術上極めて価値高きものと認める。

主論文公表誌

急性および慢性妄想と Schneider K. の精神分裂病一級症状—単一精神病的観点からの妄想に関する研究—

東京女子医科大学雑誌 第58巻 第11号
1113～1126頁（昭和63年11月発行）

副論文公表誌

- 1) いわゆる慢性精神分裂病の血液透析療法
臨床精神医学 8 (4) 407～413 (1979)
- 2) Der Klinische Gebrauch des Schizophrenie-begriffes in Krankengeschichten der Jahre 1950, 1965 und 1979 (1950, 1965, 1979年の病歴における精神分裂病概念の臨床的用法)
Nervenarzt 54 (5) 255～258 (1983)